

平成26年度 宇都宮市子ども・子育て会議 「第1回青少年部会」 議事録

1. 日 時 平成26年8月12日(火) 午前10時00分～午前11時00分
2. 場 所 宇都宮市役所 14大会議室
3. 議 事 「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定に伴う青少年分野に係る現状と課題の検証について
4. 出席者
【委 員】伊達悦子 部会長, 倉益章 職務代理者, 上澤久子 委員, 加藤明男 委員,
齋藤宏夫 委員, 鎌倉三郎 委員, 坂本保夫 委員, 中野謙作 委員,
五十嵐博史 委員, 芥川一男 委員

【事 務 局】〔子ども部〕 高橋部長, 中里次長
〔子ども未来課〕 緒方課長, 篠崎補佐, 肝付総括主査, 高橋主任
角田係長, 前沢総括主査
青少年自立支援センター 塚田所長, 休場主任
〔教育センター〕 大瀧所長, 廻谷係長
〔教育企画課〕 小林係長
〔学校教育課〕 浪花課長
〔生涯学習課〕 大竹課長, 川俣係長
〔生活福祉第2課〕 鈴木係長, 増淵総括主査
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴者数 0名

発言者	内 容
部会長	<p>1 開会 会議の公開について決定</p> <p>2 議事 (1)「宮っこ 子育て・子育て応援プラン」の改定に伴う青少年分野の現状と課題の検証について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年分野の現状・課題およびニーズ等について <p>(事務局説明)</p> <p>質問・意見はあるか。</p>
委員	<p>資料2-2の「社会的自立等に関する現状」のうち「成果指標」の「青少年の総合相談や関係機関との連携により就労に結びついた人数」について、平成20年の8人から平成25年は11人と、5年の取組で3人の増であるが、目標の平成26年(来年)で30人という数値は現状値の3倍近い人数であり、実現するための有効な施策は何かあるか。</p>
事務局	<p>相談件数は増えており、事案の掘り起こしは上手くいっているが、そのアウトプットである就労に結びつけることは上手くいっていないものと捉えている。その理由は、最近の厳しい経済状況もあるが、自立に困難を抱える若者の状況が個々に異なり、かつ様々であることから、一人ひとりの状況に合わせた支援の仕方が必要であると考え。そのためには、中野委員の団体など支援を行う団体と密接に結びつくことが必要である。また、支援を受ける若者の就職等が上手くいかない状況の把握とその理由の分析が必要である。相談から自立訓練し、就労に結びつくという仕組みづくりが必要であると考え。</p> <p>なお、目標の30人は厳しい数字であると捉えている。</p>
委員	<p>8年前から厚生労働省が行う栃木県若者サポートステーションというニート対策事業を行っている。平成25年度は、8月から平成26年3月までの約7~8ヶ月間で、12,000件を超える相談件数があり、これは全国160のサポートセンターの中で1位くらいの件数であったのだが、その就労率が約2%である。これは、我々の8年間の実績と様々な機関の連携の結果であり、国の事業と市の事業という大きな違いもあるが、2%の就労率というのがギリギリ(最大)だと思う。それから考えると、平成25年度の相談件数 約1,600件</p>

委員	<p>に対し、2%で30人くらいであることから、非常に目標値が高いという気がする。全国平均の就職率は1.2%であり、平成25年度の相談件数における現状値の就職者数に少しプラスになるくらいであることから、適切な数値ではないか。</p> <p>目標値を達成するためには、相談件数が非常に多くなるか、相談員の増加や個々に対応するための場・人づくりなどに取り組んでいかないと就労率が上がっていかないとと思う。</p> <p>現状と課題はこの通りでよいと思うが、課題の中には、青少年を取り巻く昔からの課題で依然としてある「古くて新しい課題」と、「今の時代的背景にあって特殊な課題」の2種があると思う。</p> <p>「子どもの貧困対策」は、経済格差が広がった、正に今の時代の最大の課題であると思っているが、「自然とのふれあい体験の減少」などは、以前から課題とされており、臨海学校や林間学校などの行事を廃止したときも問題となったが、今の貧困の問題と絡んでくると、経済的に恵まれない家庭や親が仕事で忙しい家庭等においては、重要な課題となる。</p> <p>このように、時代が変わって新しく課題となるものと昔からずっと課題であるものとを、明確に区別して現状と課題を捉えた方が、より効果的な施策ができると思う。</p>
委員	<p>この部会では、主に思春期や青年期を対象とするとのことであるが、30代・40代でのニートやひきこもりなどは、中学・高校生の時の生活の結果であるように思うと、同じ対象として対策を考えることが有効であるのか疑問である。中学・高校生・大学生などの社会人になるまでに対象を絞り込んで対策を考える方が効果的なのではないか。</p>
事務局	<p>青少年部会は、議論の対象としては、思春期からいわゆる青年期といわれる30歳未満までを中心に議論したいと考えている。ただし、対策を考える上では、委員が感じるようなこと（社会人になるまでを中心に捉えること）を考え合わせていく必要がある。</p>
部会長	<p>法律など国の施策に則って、年齢設定がなされているとのことでもある。</p> <p>研究者の間では、ここ10年位前から、実年齢の8掛け位で（心の年齢を）考えるということが言われてきている。</p> <p>心理・臨床の場にいる人間の実感としては、6掛けくらいで考えたほうが良いと思っている。そうすると、40歳といっても、60%の24歳と考えるとちょうど合っているように思う。寿命の年齢が長命</p>

事務局	<p>になったためにそれだけ成長が遅いという現象になっているのか、それともそれだけではない現状や社会状況があるのか、と思っている。</p>
部会長	<p>資料3 追加説明</p> <p>ここでは、小・中学校の不登校の生徒の問題だが、高校・大学の場合は中途退学の問題が深刻となっている。いずれも、学校は在籍する時間が長いことから、学校生活の中で継続的な友人関係をもてるかどうかは1つのカギになる。親の関わりが難しい場合でも、友人関係で支えられるという例が非常にたくさんある。そういう意味では、不登校の問題にどのように関わっていくのかということが、青少年問題に関わっていく上で重要だと思う。</p> <p>また、子どもの貧困の問題や虐待の問題、不登校の問題などすべてにおいて同じだが、「地域福祉」がさかんにいわれる今の時代において、1人の子どもを取り巻くヒューマン・マップをどう作っていくか、事例ごとにどういうヒューマンマップが作れるかということが対策をする上での基本となると思う。</p> <p>2 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題の検証と改定プランへの反映 ・ ライフステージごとの主な事業
委員	<p>今回は、具体的な施策を考える第2回目の部会の前段としての課題の議論だとすると、自分は、現在、地域・地元の活動、例えば夏祭りなどに関わっており、少子高齢化を実感している。地域や地域活動に関わる若い人が本当に少ないため、学校と連携してPTAや育成会に関わっている親などに参加してもらっている。自治会だけで取り組めることに限りがあることから、自治会をはじめ、家庭や学校、企業などが連携して、少しずつ力を出し合って、もっと地域全体で支えるような施策を考えてもらいたい。</p>
委員	<p>自分も地域まちづくり組織に携わっているが、学校や企業はもっと地域と連携して子どもや高齢者問題に関わってほしい。</p>
部会長	<p>大田原市の黒羽地区は、高齢者と地域との関係で、報道等でとりあげられており、自分も直接うかがったが、「地域」というものは、「昔はこうだったから」といってそれを今にスライドさせて当てはめるのではなく、「新たに作っていく」ことが必要であると思う。青少年問題の場合においても、このことを念頭において、プランを改定できると</p>

委員	<p>良いと思う。</p> <p>自分は、生活保護受給者家庭の子どもの学習支援に関わっているが、子どもたちは、時間中とても集中し、熱心に取り組んでおり、事業の必要性・効果について痛感している。しかし、講師の確保の観点から、宇都宮市全体に事業を広げることが難しく、地域のボランティアの方、特に退職された教員の方々などが、学習支援ボランティアなどいろいろな形で携わっていただくことで、それぞれの地域の様々な学習の困難な子どもたちへの支援ができるのではないかと期待している。</p>
委員	<p>ひきこもりの問題だが、学校を卒業すると関わりがもてなくなるので、いかにひきこもりの実態を市が把握して支援するかが重要である。学校を卒業した後から本当の意味の親の苦しみが始まると思うのでお願いしたい。</p>
委員	<p>資料2－4の基本施策1の(2)について、「機会均等」は基礎的な学力を身につけるためだけでなく、豊かな心を育むことにも必要であることから、「基礎的な学力や豊かな心を育むための機会均等の推進」ということで良いのではないかと。</p> <p>3 その他</p>
委員	<p>今回は、今回整理した課題に対する具体的施策・事業などの議論が予定されており、重要なところであることから、会議の時間を限らず、議論をするべきである。</p>
部会長	<p>そのことについては、事務局で、対応する。</p> <p>以上で、第1回青少年部会を終了する。</p>